

「地域力共創推進コンソーシアム」の紹介

平成 21 年 1 2 月 2 5 日

1. 基本コンセプト

社会システムのパラダイムシフトが進む中、地域の産学官連携の境界領域をサポートする機能として期待が寄せられる「民」= NPO・ボランティア・コミュニティビジネスなどなど・・・。

それらを有機的かつ包括的にカバーする【地域力()】という「くくり」と「視点」が地域蘇生に不可欠という認識の下で、わたしたち地域力共創コンソーシアムは【地域力共創】を志向するコンセプターをめざします。

: 次頁参照

2. コンソーシアム構成

(1) コンソーシアム代表 黒沼 貞志:

有限責任事業組合 (LLP) 山形ふるさと企画舎 代表
(有) SKソリューションズ 代表取締役

(2) コンソーシアム構成

有限責任事業組合 (LLP) 山形ふるさと企画舎 (代表 黒沼 貞志)

掲載URL : <http://www.sk-solutions.org/>

AISOHO 企業組合 (代表理事 菅野 美奈子)

URL : <http://www.aisoho.jp/soho/>

蔵 オビハチ「灯蔵」 (伊藤 りえ)

URL : <http://ojisho.com/kuraobi.html>

山形コミュニティ放送株式会社 (営業部長 奥山 知明)

URL : <http://www.fm762.co.jp/>

おきたまラジオNPOセンター (代表 山口 充夫)

URL : http://homepage.mac.com/okitama_radio/top.html

3. 平成 21 年度コンソーシアム事業内容 (詳細は別紙「3 事業共通チラシ」参照)

スタートして 4 年目に入った当コンソーシアムは改めての事業企画プラン策定にあたり、目指す「地域力共創」のコア・コンピタンス (核となる能力) を次のように再設定しました。

「コミュニケーション力(ネットワーク構築力)」の蘇生

(一歩進めて)

「コミュニケーション・プラットフォーム」の再生

情報化技術 (IT) の進歩とは逆行する方向で「人々のコミュニケーションの希薄化」が進行しています。情報化技術はあくまで手段であるとの認識の下、自分を理解して「他者とのコラボレーション」する力、即ち、コミュニケーション・プラットフォームの再生に関わる事業として次の 3 事業をその目的 / 手段の関係を明確にして (次頁参照) 遂行します。

(1) 「One Coin 地域力 カフェ」開催事業

< Face To Face > のコミュニケーション

(2) 「Yamagata 地域力 ステーション」運営事業

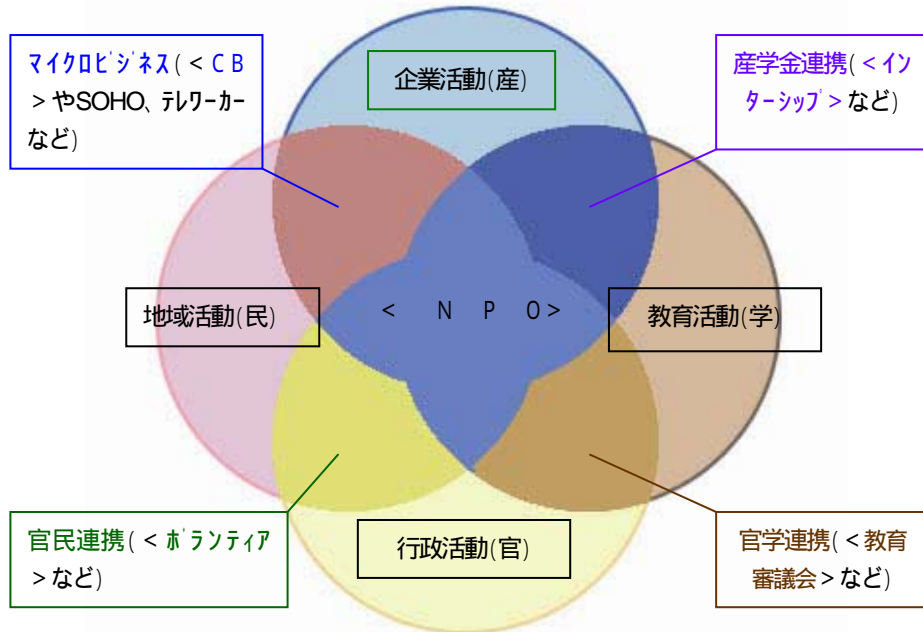
< 放送メディア > を通じてのコミュニケーション

(3) 「地域力 倶楽部」運営事業

< インターネット > を通じてのコミュニケーション

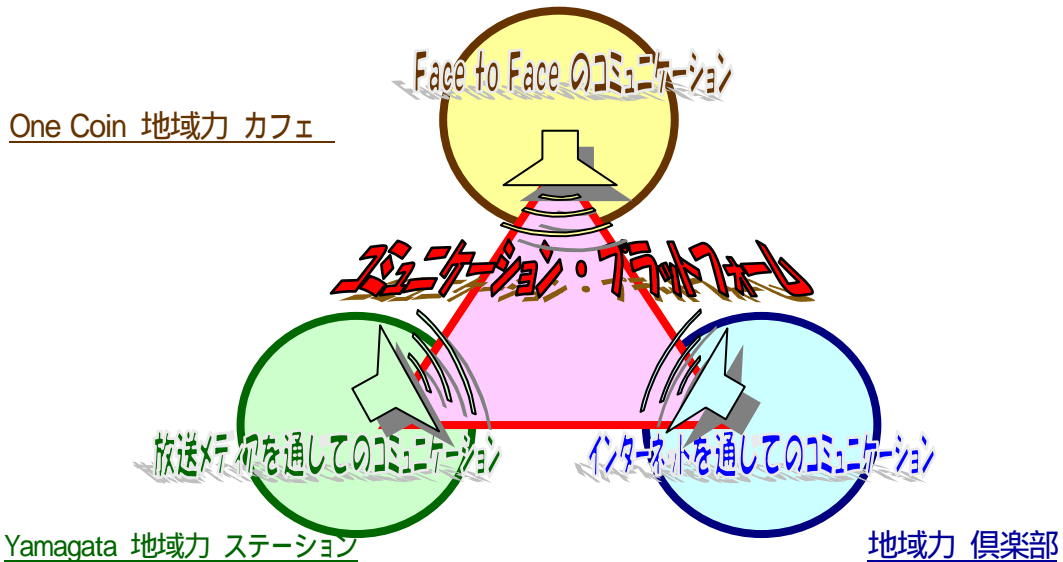
<地域社会を変える力(地域力)の相関>

「地域力共創の領域相関」



注 < >の領域を一緒に括って【地域力】

<「地域力共創」に関わる「コミュニケーション・プラットフォーム3事業」の相関>



4. コンソーシアム事業と構成メンバーの主たる業務分掌

事業名 構成メンバー	< Face to Face > のコミュニケーション	< 放送メディア > を 通じてのコミュニ ケーション	< インターネット > を通じての コミュニケーション	
	One Coin 地域力 カフェ	Yamagata 地域力 ステーション	メルマガの配信 (地域力 倶楽部)	Webラジオ配信 (One Coin 地域力 カフェ)
(LLP)山形ふるさと企画舎 <主として黒沼>	企画・実行・ スタッフ	企画・実行・ スタッフ	企画・実行・ スタッフ	
AISOHO 企業 組合 <主として菅野>	企画・実行・ スタッフ			
蔵 オビハチ 「灯蔵」 <主として伊藤>	会場設定・ スタッフ			
山形コミュニティ 放送株式会社 <主として奥山>		番組枠提供・ 収録・放送・ スタッフ		
おきたまラジオ NPOセンター <主として山口>	企画・実行・ スタッフ			収録・編集・ ブラウザヘアップ